

全国一斉休校のさなか、昨年は中止を余儀なくされた卒業式が、今年は感染予防対策をとりながら多くの学校で行われました。新たな門出となる入学式も、たくさんの希望に包まれますよう。

現在会員登録数 3,529 人さま。次号は 4 月 20 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国イベント紹介

【4】プレゼント

■-----
【1】お知らせ

● 「第 37 回 日産 童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,283 編、絵本 413 編、計 2,696 編の中から、入賞作品 38 編が決定しました。

・ 童話の部大賞『ながみちくんがわからない』 数井美治さん

・ 絵本の部大賞『マロングラッセ』 だるまもりさん

上記の 2 作品は、後日、絵本として出版されます。

◇ 絵本の部 入賞作品展 3 月 28 日（日）まで開催中

大阪府立中央図書館 国際児童文学館展示コーナー（東大阪市荒本）

開催日・時間は、上記館の開館日、時間に準じます／入場無料

→ http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#37tenji

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のためにー 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間 1 万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント！

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----
【2】コラム

《1》 この本読んだ？ Yasuko's & Satoko's Talk

『ベランダに手をふって』 葉山エミ/作 植田たてり/絵 講談社 2021年
1月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学5年生の輝（ひかる）は、お母さんと二人暮らし。学校へ行くとき、毎朝、お母さんが団地の5階のベランダから見送ってくれる。それを級友の智博に見られてからかわれ、悩む。すると、同じクラスの香帆に「おかしいなんて思わない」と言われ、心が和む。実は香帆は最近父を亡くし、しばらく母が心を病んでいた。

その後、運動会が行われ、保護者との二人三脚の競技に、輝は樹おじさんと、香帆は母と出場することにするが、当日、香帆の母は看護師の仕事のために二人三脚に間に合わなかった。

S：もう幼い子どもでもない、けれども大人でもない、思春期の入り口に足を踏み入れた小学校5年生の少年、輝の心理と成長を描いています。

Y：親離れと淡い恋心。とてもさわやかな読後感でした。作品の中に、輝が少しずつ大人になっていくことがわかるエピソードが重ねられています。

S：それは、6歳の時に病気で亡くなった父親とのハイキングを思い出して、父が自らの病気を知って自分をハイキングに連れていったことに気づくところや、畳で寝ている母親を見て寝かせておこうと思うところが挙げられます。読みながらうまいなと思いました。

Y：輝も香帆も父親を亡くしており、そのことが二人を結びつけます。二人には死が身近にあります。一方で、輝の叔父夫婦に赤ちゃんが生まれるという生も描かれています。

S：祖父母が赤ちゃんに向けている笑顔を見ながら、二人の笑顔は11年前、ぼくにも向けられていたんだと思う場面は、心に残りました。

Y：こんなふうに、輝は、母だけでなく、祖父母や叔父夫婦に見守られながら育ちます。

S：そして、運動会の日、香帆の母が二人三脚に出られなかったとき、輝の叔父が夏帆と二人三脚に出場します。

Y：ここからは、血縁だけでなく、社会で助け合いながら子どもを育てることの大切さが伝わってきます。

S：満開のコスモスの中で香帆と出会い、最後はコスモスの種を夏帆に渡して作品が終わります。季節の移り変わりを表現しながら、種から花が咲くような明るい明日がイメージできるように描かれていると思いました。

* 今回のゲストは当財団特別専門員小松聡子さん（S）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第67回「寓話 洞熊学校を卒業した三人」

寓話の後景、そして、先生の大あくび

宮沢賢治は、出来あがったはずの詩や童話を、時間を置いて、時には大はばに改稿することをしばしばしました。「寓話 洞熊学校を卒業した三人」は、賢治の最初の童話といわれる「蜘蛛となめくじと狸」（当メルマガ NO.73 参照）を書きかえた作品です。

「赤い手の長い蜘蛛と、銀色のなめくじと、顔を洗ったことのない狸」の3人が登場して競争するのは、この作品でも同じですが、その競争の場として、洞熊学校が新たに用意されます。大きいものが一番立派だと教える洞熊先生が点数をまちがったりするので、「競争」は、何だか無化されてしまうのですが。それでも、3人はそろって卒業し、語り手は、いったん洞熊学校をはなれて、背後の情景を語ります。

くちょうどそのときはかたくりの花の咲くころで、たくさんのたくさんの
眼の碧い蜂の仲間が、日光のなかをぶんぶんぶん飛び交いながら、
(中略) もういそがしくにぎやかな春の入口になっていました。)

三つの章で、3人のその後の大きくえらくなるための腐心と自滅が描かれるのも「蜘蛛となめくじと狸」と同じ構成ですが、ちがうのは、それぞれの死のあとに、そのときどきの眼の碧い蜂たちのようすが語られることです。蜘蛛の死は「つめくさの花のさくころ」で、なめくじの死は「蕎麦の花がいちめん白く咲き出したとき」、狸の死は「もう冬のはじまり」でした。

蜂の群れのいる風景に「改稿前にはなかった不思議な安らぎ」を感じるというのは、ますむらひろしです(角川文庫版『まなづるとダアリヤ』解説、1996年)。前回の「クンねずみ」(当メルマガ NO.126)に見られた「教育という営みを通して競争を煽る風潮への諷刺」がここでも行われているのに、「不思議な安らぎ」があるのは、語りの視点がぐっと引いて、寓話の後景があらわれるからではないでしょうか。そこでは、どの季節でも、蜂たちのせっせと蜜を集める仕事がつづけられています。

物語のおしまいになって、洞熊先生がふたたび登場します。——「ああ三人とも賢いこともらだったのにじつに残念なことをしたと云いながら大きなあくびをしました。」先生のおくびが、三つの小さな伝記のように描かれた、蜘蛛となめくじと狸のおくせくと生きた生涯をあっという間に相対化してしまうようです。(馬車別当)

(本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション』5によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 21

ハンジユクさんは あるひ たびに できることに しました
したぎを 3まい よういして リュックに いれ
いれば はぶらし はみがきこ おむすびを つくえの うえに ならべて
みると
みるとんくんも リュックに 入れて つれてってよ というので

(『とさかにごはん』スズキコージ/作 理論社 1993年6月)

これは、ナンセンス絵本『とさかにごはん』の冒頭4見開き分の文章です。既にお気づきの方もいらっしゃると思いますが、文の最後の2文字と最初の2文字が同じ音になっている、つまり、ページごとの2文字しりとりになっているのです。そして、4文目にある、「みるとんくん」こそ、表紙の絵にもあ

るニワトリ。とさかにご飯つぶがついています。

みるとんくんをリュックに入れて旅に出たハンジユクさんは、抽選であたった引き換え券でパンをもらい、駅まで案内してくれる「むとうさん」と犬の「だすとくん」と一緒に駅まで走りますが、汽車に乗り遅れます。そこで、ハンジユクさんは線路を歩いてイタリアに着き、ベンチで寝てしまいます。そして、最後にはしっかりと、みるとんくんが登場して、「とさかにごはん」という文で終わって、第一文に戻ります。

このように、この絵本の文は、円環になっていて、何度もぐるぐると読むことができるのです。人との出会いを大切に、失敗にもめげずに旅を続けるハンジユクさんの姿が楽しく、黒と赤だけで構成されていて遊び心いっぱいの画面も、前ページとのつながりがある、「しりとりにふう」になっています。

(Y)

《4》 行って来ました！

大阪市の天王寺動物園に3月9日にオープンした「TENNOJI ZOO MUSEUM」に行ってきました。1915年に開園した天王寺動物園の次の100年のためにと策定された「天王寺動物園101計画」に基づいて、学習棟として作られたそうです。

ミュージアムに入ると、「MISSION & VISION (理念とあるべき姿)」が掲示され、天王寺動物園がレジャー、学校などへの環境教育、種の保存、調査研究の4つの目的があることがわかります。

最初に目に入るのは、アジアゾウの半身がリアルなレプリカの大きな骨格標本です。アジアゾウの解説とともに天王寺動物園で飼育されていた歴代のゾウの歴史も書かれています。

廊下の一面が2階建ての天井までガラス張りになっている「見せる収蔵庫」には、ライオンやホッキョクグマの剥製やクロサイやアミメニシキヘビなどの骨の標本が上から下までずらりと並んでいて、まるで、ノアの箱舟のよう。今にも動き出しそうな動物たちに目がひきつけられました。過去に天王寺動物園にいた動物たちのものもあると聞きました。

「キッズライブラリー」のコーナーは、動物の角の形の小さなかわいいすがありました。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため入れませんが、壁面の書架には、いろいろな動物や鳥、魚、昆虫などの図鑑や写真絵本、読物などが並んでいます。今見てきた動物を、すぐに本で調べられたらおもしろそうだと思います。

ミュージアムでは、定期的に動物をテーマにした絵本のおはなし会も開催されています。3月23日から4月18日まではミュージアム内のホールで、生物多様性がテーマの企画展「いきものなにももの？いきものたちの命のつながり」が開催されるそうです。動物を見たあとにミュージアムを訪れることで、新しい発見をすることができる場所だと思いました。そして、大人になっても、たまには動物園に行くのも楽しいなと感じました。(K)

* 天王寺動物園

<https://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu170/tennojizoo/>

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介
■ ----- ■

● 国際子どもの本の日記念講演会「ずっと子どもを書いてきました」
講 師：岩瀬成子（児童文学作家）
ゲスト：荒井良二（絵本作家）
日 時：3月27日（土）15：30～17：00 ※オンライン開催（Zoom）
定 員：100人 参加費：有料 申し込み：必要
主 催：（一社）日本国際児童図書評議会（JBBY）
後 援：大阪国際児童文学振興財団 協 力：大阪府立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ベランダに手をふって』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.127 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は4月12日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — |

新聞に、桜の開花情報が載りはじめ、友人たちのSNSでも少しずつ開花しはじめている映像とともに、今年の開花が早そうなことを伝えています。桜は、映像と家の近くと通勤途上で楽しむことにして、開花予測と天気予報を見ながらのお花見は、来年の楽しみにとっておこうと思います。（TA）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail : office@iiclo.or.jp

